## ●検診を継続していくためには・・・

- 検診の必要性を多くの人に理解してもらうこと
- たくさんの医師・技師の検診への協力
- 検診実施方法の確立（申込・受付、検査報告書、運営）
- 検診時ボランティアの募集（いつでも　ちょっとでも）
- 後援・協力団体への働きかけ　などなど

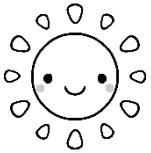
**◎はじめての検診が決定◎**

**日時：2017 年 4 月 16 日（日曜）**
**午前 10：00～12：00 予定**
**午後 13：30～15：30 予定**

**場所：タワーホール船堀　406 会議室**


□□“甲状腺検診えどがわ”　□□お問い合わせ

代表◎市村　智信　　ｱﾄﾞﾚｽ：　bigwave.tomo724@ymobile.ne.jp
代表◎西野（杉浦）陽子　ｱﾄﾞﾚｽ：　y-nisino@pd6.so-net.ne.jp
連絡先：江戸川区西葛西 6-28-20-215
ﾃﾚ：090-2548-1408（事務局　石倉）
E-maill：　kouzyousen.edogawa@gmail.com
ブログ：　http://kouzyousenedogawa.seesaa.net/

# 甲状腺検診えどがわ

**市民の自主運営で甲状腺検診を実施します**

2011 年 3 月の福島原発事故から5年が過ぎました。事故の直後には、江戸川区内の乳幼児のいる家庭にペットボトルの水が配布され、水や食べもの、空気に神経を使いました。

この5年間で健康不安の原因はなくなったのでしょうか？現在でも区内に高い線量の場所が見つかっています。

チェルノブイリでは5年目以降に小児甲状腺がんが増えました。日本でも増える可能性があるのではないでしょうか。

小児甲状腺がんの多発が明らかになっている中、福島だけでなく関東各地で自主検診が行われていることを知り、江戸川区でも甲状腺検診を実施しようと会を立ち上げました。

2016.8 発足

## ●会の目的

- スクリーニング検査をすることで、がんの疑いがあれば早期に対応するための一助とする。
- 放射能による健康影響について知らせ、いのちと健康を守る方法をいっしょに考える。
- 国・行政に甲状腺検診の実施を求める。

## ●検診の内容

- 対象者：2011 年 3 月の原発事故当時 18 歳以下だった方
  - ✧ （区内在住の方を優先）
- エコー検査：喉にエコーのプローブ(接触子)をあて動かしながら画像を見て、医師がその場で説明します。検診後、報告書と画像プリントを一緒に渡します。
- 次回検査の際、前回の結果と比較できるようにデータ管理をします。
  ※ 個人情報はデータ管理以外に利用しません。
- 当日検診の前に“検診への理解を深めるために”医師による説明を行います。(参加必須)
- ボランティアでの運営のため、受診者一人当たり 1500 円程度のカンパ協力を求めます。（検診経費に充てます）

## □小児甲状腺がんとは

- 甲状腺：喉ぼとけ下にあり成長ホルモンなどを分泌する器官。ヨウ素を取り込む性質があり、原発事故で放出された「放射性ヨウ素」でがんになる可能性が指摘されている。
- チェルノブイリ事故 10 年後に放射性ヨウ素を原因とする疾患として IAEA（国際原子力機関）など国際機関が事故由来を唯一認めた疾患。
- 政府、福島県：事故当時福島在住の 18 歳以下の成長期の子どもに対して甲状腺がん検診を定期的に実施されている。
- 発症率：
  事故前日本（国立がんセンター統計）100 万人に 3 人
  事故後福島（県民健康管理調査）3000 人に 1 人

## ●甲状腺検査を実施するために必要なことは

- 問診票・診断報告書等の様式
- 検診会場
- 運営スタッフ
- 検診に協力してくださる医師・技師
- 超音波診断装置（分析用ソフト搭載）

※診断装置他機材貸し出し、医師の紹介、運営協力など検診実施に「甲状腺検診ちばの会」の方にご協力いただきます。